

まちのたから 発見

身近に見られる美しい霧氷 綿向山



▲登山道に広がる霧氷の姿は、自然の力が作り上げた美しい芸術作品

●町のシンボル・綿向山

近江の名山である綿向山。町では、平成8年に1110mの標高にちなんで、11月10日を「綿向山の日」に制定しました。四季それぞれに美しい景色の移り変わりを見せ、優美な姿の綿向山は登りやすい山として知られています。

●冬ならではの産物

近年、綿向山は冬に霧氷を見られる山として関西・中京圏で有名になり、山の愛好者がバスで訪れ、駐車場が満車になることがあるなど、多くの登山客が訪れています。霧氷とは、冷えた雲や霧が樹木などに付着したもので、

綿向山の霧氷は、繊細で美しいことが特徴です。

6合目あたりから、木の幹や枝には、風の方向と同じ向きに造り上げられた美しい霧氷を見ることが出来ます。

そして、7合目からは、冬季限定の尾根コースを登ると、美しい景色のハイライトを迎えます。霧氷で飾られたトンネルをくぐりながら、ブナ林を抜ける。幻想的な銀世界は、どんなに広がっていきます。

天候の条件によって、水分を含んだ柔らかな印象のものから、針や海老のしっぽのようにつっきりと形作られたものまで、さまざまな霧氷の姿が楽しめます。

●霧氷を楽しむために

霧氷を見るための冬山登山では、雪山装備を着け、経験のある方と登ることが重要です。登山道の整備などを、ボランティアでしてくださっている「綿向山を愛する会」では、年に一度、会員とその知人などを対象に、「霧氷まつり」を開催されており、今年は1月15日(日)に行われました。

スタッフの方の先導で、安全安心に気を配りながら、霧氷を満喫された参加者の皆さん。頂上では、豚汁やココアでもてなしが行われ、参加者の心も体も温められました。綿向山には、霧氷をはじめ、魅力がいっぱい詰まっています。



▲「霧氷まつり」で美しい景色を満喫された皆さん

滋賀県物産事業 功労者表彰

藤あられ本舗
遠藤 芳夫さん (河原)



▲表彰を受けられた遠藤さん

このたび、藤あられ本舗の遠藤芳夫さんが、滋賀県物産事業功労者表彰を受けられました。

日野町特産品振興を通して、日野町の産業産地等の発展に寄与され、その功績が認められました。遠藤さんは、「日野菜プロジェクト委員会」の一員であり、「日野菜サラダ」という商品を丸4年かけて独自開発されるなど、地域の特色を生かした特産品づくりをされています。

受賞後、遠藤さんは「地場産業を生かしたお菓子づくりは大切です。お客様に喜んでいただける味を大切にしていきたい」と話されていました。

受賞おめでとうございます。

災害時の支援体制がより充実

(社)滋賀県造園協会東地区と協定締結



12月7日(水)、役場特別室で「災害時における応急救援活動への応援に関する協定調印式」が行われ、(社)滋賀県造園協会東地区(武藤晶男地区長)と日野町の間で、災害時における人命救助および支障物の撤去等のための資機材、労力の支援、倒木等の被害状況調査の実施協力について、応援協定が締結されました。

この締結により、災害時の支援体制がより充実することとなりました。